

第104回日本精神神経学会総会

シンポジウム

全国共用試験（CBTとOSCE）について

佐野 輝（鹿児島大学大学院医歯学総合研究科精神機能病学分野）

平成13年に医学教育モデル・コア・カリキュラムが公表され、医学教育モデル・コア・カリキュラムには臨床実習開始前までに取得すべき到達目標が示された。この目標に準拠した共通の評価試験システムが共用試験である。共用試験は診察・技能と態度を客観的臨床能力試験（OSCE）で、臨床実習に必要な知識の総合的な理解の程度をコンピュータを用いた客観試験（CBT）で評価する。共用試験は平成17年度から社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構が全国80の医学部・医科大学で正式実施し、その成績は各大学の成績とともに臨床実習開始前の進級判定等に用いられている。OSCEでは、「医療面接」において各大学で精神医学講座が担当していることが多く、CBTでは精神医学総論および各論が症例に則して出題され、各大学の臨床実習前までの精神医学教育が問われており、適正な問題か否かについても学会レベルからの意見が必要であると考えられる。

1. 共用試験とは

文部科学省「医学・歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」から「学部教育の再構築のために」として平成13年3月に、医学教育モデル・コア・カリキュラムが公表され、医学教育モデル・コア・カリキュラムには臨床実習開始前までに取得すべき到達目標が示された。この臨床実習開始前までの到達レベルに準拠した共通の評価試験システムが共用試験である。平成14年から共用試験のトライアルが始まり、平成17年12月からの正式実施は社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構（全80医学系大学、28歯学系大学参加）が参加し、その成績は各大学の成績とともに臨床実習開始前の進級判定等に用いられている。

共用試験は診察・技能と態度を客観的臨床能力試験（Objective Structured Clinical Examination, OSCE）で評価し、臨床実習に必要な知識の総合的な理解の程度をコンピュータを用いた客観試験（Computer Based Testing, CBT）で評価する。OSCEは「診療参加型臨床実習に参加

する学生に必要とされる学習・評価項目」（医学系）に準拠して行われる。学習・評価項目の中で、各大学が共通で準備できる必要最小限のセッション（実技試験の場面、医学系6以上）について実施される。CBTでは、合計320設問がランダムに出題され、内容は、臨床実習までに身につけておく必要のある基礎と臨床の基本的問題である。

2. 共用試験 OSCE について

医学教育および歯学教育モデル・コア・カリキュラム：教育内容ガイドラインに提示された技能・態度に関する項目の中で、臨床実習に参加する学生に求められる技能と態度については、共用試験医学系 OSCE「診療参加型臨床実習に参加する学生に必要とされる学習・評価項目」（表1）〔以下「学習・評価項目」という（医学系）〕としてまとめられている。OSCEでは、上記の「学習・評価項目」あるいは「課題と学習目標」に準拠して技能と態度を評価する

共用試験医学系 OSCEでは、医学教育モデル・コア・カリキュラムに準拠し（表2）、臨床

表1 医学系の学習・評価項目 (第2.1版 平成19年度) 抜粋

I. 診察に関する共通の学習・評価項目
(1) 医療安全
(2) プライバシー・羞恥心・苦痛への配慮
(3) マナー・身だしなみ
(4) 言葉遣い
(5) 挨拶や説明
II. 医療面接
(1) 診察時の配慮 (I.を参照)
(2) 導入部分: オープニング
(3) 患者さんとの良好な (共感的) コミュニケーション
(4) 患者さんに聞く (話を聴く): 医学的情報
(5) 患者さんに聞く (話を聴く): 心理・社会的情報
(6) 患者さんに話を伝える
(7) 締めくくり部分: 診察への移行/クロージング
(8) 全体をとおして
(9) 報告

表2 医学教育モデル・コア・カリキュラム (平成19年度改訂版) 抜粋

3 基本的診療技能
(2) 医療面接
一般目標:
医療面接に関する基本的な考え方と技能を学ぶ。
到達目標:
1) 適切な身だしなみ, 言葉遣いや礼儀を実践できる。
2) 医療面接の目的・意義 (情報収集, 良好な医師-患者関係, 治療・教育的効果) を説明できる。
3) 医療面接における基本的コミュニケーション技法を実践できる。
4) 病歴情報の種類 (主訴, 現病歴, 既往歴, 家族歴, 社会歴, システムレビュー) とそれを聴取する際の手順を説明できる。

実習を開始するにあたり具備すべき必須の臨床能力を「学習・評価項目」としてまとめられた評価が行われる。

OSCEの「医療面接」においては各大学で精神医学講座が担当していることが多いが、患者さんとの良好な (共感的) コミュニケーション、心理・社会的情報の聴取など精神医学的面接手技に関わる評価部分も多く、臨床実習前の精神医学教育内容が問われている。第2回正式実施 (2007年度共用試験) 医学系 OSCEの全国成績ステーション別得点分布をみると、「医療面接」は、全ステーション中もっとも平均点が低い。「医療面接」は難しいのか、最近の学生は共感もできないのか、それとも精神医学の教育不足なのかは問われるところである。

3. 共用試験 CBT について

CBTは、コンピュータを用いて問題プールから受験生ごとに異なる問題がランダムに出題され、学生一人当たり320問題が出題される。これらの問題は全国80医学系大学・学部から提出され、トライアルにより適正な問題であると評価された

出題問題について採点されている。精神医学領域でもモデル・コア・カリキュラムに準拠した適正な問題か否かについても学会レベルからの意見が必要かと考えられる。

4. まとめ

(1) OSCEの「医療面接」においては各大学で精神医学講座が担当していることも多いが、患者さんとの良好な (共感的) コミュニケーション、心理・社会的情報の聴取など精神医学的面接手技に関わる評価部分も多く、臨床実習前の精神医学教育内容が問われている。

(2) CBTでは、精神医学領域でもモデル・コア・カリキュラムに準拠した適正な問題か否かについても学会レベルからの意見が必要であると考えられる。

(3) 精神医学領域に限らず、医学教育の中で共用試験と医師国家試験に対する対策教育が卒前教育で重要な位置を占める現状になりつつあることを考えると、共用試験の内容の改革に精神医学も学会レベルから真剣に取り組む必要がある。